



# きたのだいしょう としょかん 北ノ台小 図書館だより

令和8年6月 No.3

校長 門田英朗  
学校司書 笹島成美

ろくがつようか どくしょしゅうかん はじ む としょいいん どくしょ  
6月8日から読書週間が始まります。それに向けて、図書委員さんが読書を  
たの 楽しむような企画を 考え ています。どのようなものか楽しみにしてい  
てくださね!

あた ほん  
新しい本もたくさん入りました。図書室に本を借りたり、読みに来たりして  
ください。お待ちしています。

つゆ きせつ としょ ぶくろ わす  
梅雨の季節なので、図書バッグにビニール袋は忘れずに!



## ★6月の給食はブックメニュー★



ほん で りょうり きゅうしょく  
本に出てくるお料理が給食のメニューに入ります。出て  
くるお料理が描かれた本は、図書室にあります。気になった人はぜひ読んで  
みてください!

6/9 『おなべおなべにえたかな?』 / 小出保子... にんじんスープ

6/16 『けんかのきもち』 / 柴田愛子・伊藤秀男... ぎょうざ

6/18 『うどんのうーやん』 / 岡田よしたか... うーやんのうどん

※『うどんのうーやん』は、図書室にないため他校から借りています。

よ 読みたい人は司書に声をかけてください。



## ろく がつ の ほん だな 棚

ろくがつ てんじ  
6月の展示テーマは「**雨**」です!

はなし なか あめ ふい ほん しょうかい  
お話の中で「雨」の降る本を紹介しています。

あめ つづ そとあそ きぶん  
雨が続くと外遊びもできないし、なんだかゆううつな気分になりますが、そう  
いうときこそ物語の世界にひたってみませんか?



『<sup>あめ</sup>雨をよぶ<sup>りゅう</sup>龍 4年にいちどの<sup>あま</sup>雨ごい<sup>ぎょうじ</sup>行事』

<sup>あきやま</sup>秋山<sup>とも子</sup>とも子 <sup>こぶん</sup>文・<sup>え</sup>絵 / <sup>どうしんしゃ</sup>童心社

<sup>さいたまけんつるがしましすねおり</sup>埼玉県鶴ヶ島市脚折で4年に1度行われる<sup>あま</sup>雨ごい<sup>ぎょうじ</sup>行事。長さ<sup>3</sup>3 <sup>6</sup>メートル、重さ<sup>3000</sup>3000キロもある<sup>りゅうじん</sup>龍神を作り始めるところから、<sup>まち</sup>町をねり<sup>ある</sup>歩き、<sup>らいでんいけ</sup>雷電池へと担いでいくまで、<sup>でんどうぎょうじ</sup>伝統行事とそれを<sup>けいしやう</sup>継承する<sup>ひと</sup>人たちをていねいに<sup>えが</sup>描く。

『<sup>あめ</sup>雨の日の<sup>ちか</sup>地下<sup>か</sup>トンネル』

<sup>かまた</sup>鎌田<sup>あゆみ</sup>歩 <sup>さく</sup>作 / <sup>かん</sup>アリス館

<sup>あめ</sup>雨が降っています。<sup>どうろ</sup>道路にたまった<sup>あめ</sup>雨は、どこへ行くの？ <sup>はいすいこう</sup>排水溝から<sup>どうろ</sup>道路の下へ<sup>なが</sup>流れた<sup>あまみず</sup>雨水は、「<sup>すいかん</sup>水管」に<sup>あつ</sup>集められて…。<sup>あめ</sup>雨から<sup>まち</sup>街を守る<sup>まも</sup>る<sup>はくりよく</sup>しゅくみを<sup>えが</sup>描きます。ワイドページあり。



『<sup>あめ</sup>雨ふる<sup>ほんや</sup>本屋』

<sup>ひなたり</sup>日向理恵子 <sup>え</sup>作、<sup>よしだ</sup>吉田尚令 <sup>え</sup>絵 / <sup>どうしんしゃ</sup>童心社

だれかが<sup>わす</sup>忘れてしまった<sup>ゆめ</sup>夢や、「おしまい」の<sup>もじ</sup>文字を書かずに<sup>か</sup>途中になっ<sup>とちゆう</sup>てしまった<sup>ものがたり</sup>物語に、<sup>あめ</sup>雨をかけて<sup>あめ</sup>できあがる<sup>ほん</sup>「雨ふる本」。<sup>み</sup>満たされ<sup>さび</sup>ない<sup>あめ</sup>寂しさを<sup>こ</sup>かかえた<sup>あめ</sup>ルウ子は、<sup>ほんや</sup>ひよんな<sup>まよ</sup>ことから「雨ふる本屋」に<sup>あめ</sup>迷いこみ…。



『<sup>あめ</sup>レイン 雨を抱きしめて』

<sup>あいけん</sup>アン・M・マーティン <sup>さく</sup>作、<sup>にしもと</sup>西本かおる <sup>やく</sup>訳 / <sup>こみねしやてん</sup>小峰書店

<sup>しょうこうぐん</sup>アスペルガー症候群の<sup>しょうじょ</sup>少女ローズにとって、<sup>あいけん</sup>愛犬<sup>こころ</sup>レインは<sup>ささ</sup>心の<sup>きよだい</sup>支え。ところが、<sup>き</sup>巨大<sup>ひ</sup>ハリケーンが来た日、<sup>ゆくえんめい</sup>レインは<sup>あい</sup>行方不明<sup>まよ</sup>になってしまい…。<sup>あい</sup>せつなくて<sup>ものがたり</sup>やさしい<sup>あめ</sup>愛の物語。

